

ほんかんだい しつ  
本館第5室：こころの宇宙——価値

えんぜつしや いす  
イアトムル人の演説者の椅子

パプアニューギニアのセピック川中流域に住むイアトムルの人々は、迫力に満ちた神像や仮面の作り手として知られています。彼らの村の中央には精霊小屋が建ち、その内部には精霊や祖霊をかたどった彫刻や仮面などが置かれています。精霊小屋はイアトムルの人々を守護する精霊や祖霊が集う場所であるとされ、さまざまな儀礼が執り行われる神聖な場所です。



この「演説者の椅子」(イアトムル語で“テケ”)と呼ばれる椅子も精霊小屋の中に置かれます。椅子の側面には大きな顔をもつ立像がとりつけられていますが、これはイアトムルの人々が生きる大地を生み出した創造主ワグンをかたどったものとされています。この椅子と立像は別々に作ってつけられたものではなく、はじめから一本の太い丸太をくりぬいて作られています。

座ることのない椅子

この椅子は「けっして座ることのない」椅子です。精霊小屋に集う男たちは、腰かけたり寝そべったりするための台を使います。ふだん男たちは「演説者の椅子」に腰かけることはもちろん、触ったりすることも厳しく禁じられています。村の中での政治的な取り決めやもめごとの解決など、イアトムル社会にとって何か大切な問題が起きると、男たちは精霊小屋に集まって議論をします。演説をする男は、ある特別な葉(ユリ科植物)の束を手に持ってこれをときおり椅子にたたきつけながら、大きな声で自分の意見をまくしたてます。男たちは椅子に葉をたたきつけることによって、偉大なる創造主の力を自らのうちに呼び込み、その力を言葉に込めて発しているのです。

ほんかんだい しつ うちゅう かち  
**本館第5室：こころの宇宙——価値**

かめん  
**ドゴン人のカナガ仮面**

これは、ドゴン人のカナガと呼ばれる仮面です。仮面の顔部分の上に、“ヰ”形の飾りが乗るという独特の形をしています。飾りの中央の支柱は世界の軸を、上の腕木は天を、下の腕木は大地を表すとされます。

ドゴン人は、西アフリカ、マリ共和国の中央部に住む農耕民です。ドゴンの神話は天地創造の神話をはじめとして、壮大な宇宙観、世界観を持っています。ドゴン人は、特徴ある图形を規則的に用いた仮面を作る人々として有名です。仮面の踊りは、彼らの神話の世界を鮮やかに表現します。



**死の世界と仮面**

ドゴンの神話では、人間の過ちによって世界に死が出現し、その混乱を鎮めるために死者をかたどった仮面が作られるようになったと語られます。その後、狩人が獣を殺すたびに、あるいは何か重大な事件が起きるたびに仮面が作られるようになりました。仮面のモチーフはシカ、サル、ウサギといった野生動物から人間、そして首長の家までさまざまです。仮面は死と、死に関わる儀礼に結びついています。死者をほうむる儀礼に仮面が登場し、仮面の力によって死者は生者の世界と切り離されます。

死者を精霊の世界へ送り出す喪明けの儀礼では、仮面をかぶった男たちが太鼓の伴奏に合わせて踊ります。仮面にはそれぞれ決まった踊りがあり、神話に沿ったストーリーが演じられます。カナガ仮面は儀礼の最後に登場します。踊り手は仮面の飾りの先を大地に打ち当て激しく踊ります。この動きは鳥を表すとも、創造神が世界を創造する様子を表すとも言われます。